

第2章

調査結果の活用

個人結果票の見方や、非認知能力・学習方略に関する分析、調査の活用方法について掲載しています。

校内研修の資料や、調査結果を分析する際の参考として御活用ください。



(1) 個人結果票の見方について

今年度初めて実施の児童生徒の場合

児童生徒に配布される個人結果票の例（小学校第4学年国語）

国語

今までの学力の変化

教科に関する調査結果

あなたは、「レベル5」の学力があります。

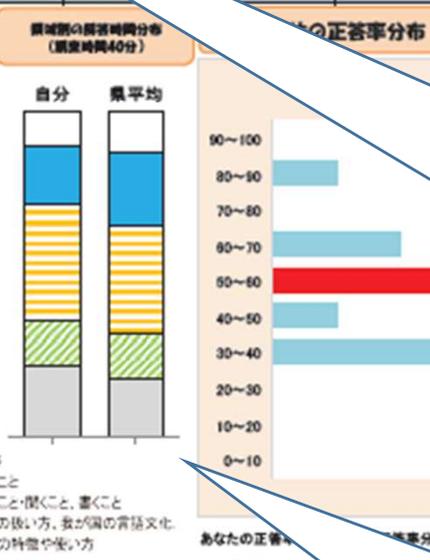
		小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生
高 学 力	レベル12						
	レベル11						
	レベル10						
	レベル9						
	レベル8						
	レベル7						
	レベル6						
	レベル5						
	レベル4						
	レベル3						
	レベル2						
	レベル1						

白い部分が学力の調査範囲を示している。
小学校4年生の場合は、レベル1からレベル7までが調査範囲となる。

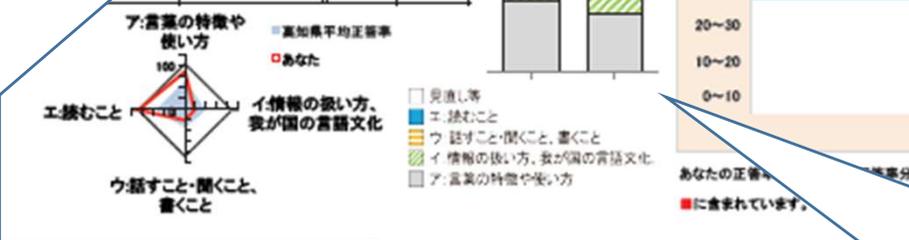
今年度の調査で測定した児童の学力のレベルが示される。
1つのレベルは、さらに3層（A、B、C）に分かれている。
例は、レベル5-Bの学力を示している。

教科の領域等別正答率として、県の平均正答率と児童の正答率が示される。
児童の得意分野と苦手分野が分かる。

領域等	問題数	あなたの正答率(%)	県全体の平均正答率(%)	あなたのかけた時間	県全体の平均かけた時間
ア	10	12	83.3	08分50秒	07分18秒
イ	1	5	20.0	05分34秒	05分32秒
ウ	2	9	22.2	14分07秒	13分07秒
エ	4	4	100.0	07分09秒	09分00秒
全体	17	30	58.7	25分40秒	34分58秒



来年度は次の学年の欄に学力レベルが示される。これにより学力の変化を見ることができる。



県全体の正答率分布と、児童の正答率が示される。
県全体における、おおよその位置が分かる。

領域等	言葉の特徴や使い方	領域等	話すこと・聞くこと、書くこと
問題の概要	指示語の示す内容を文中から抜き出して入力する	問題の概要	話題に関する自分の意見を理由を明らかにしながら入力する
見直し回数	1	正解	正
かけた時間	02分18秒	県正答率	40.0%
	かけた時間 県平均	見直し回数	2
	00分56秒	正解	誤
		県正答率	20.0%
		かけた時間	03分37秒
		かけた時間 県平均	01分50秒

学習に関するアドバイス

あなたには表示されているレベルの学力があります。日々の授業を大切に、積極的に学習に取り組んでいきましょう。
読むことは、大へんよくできました。さらに読む力をのばすために、いろいろな本を読むことにちょうせんしましょう。今までより長い物語や、今までえらんだことがなかった本を読んでみるとよいです。物語を読むときには、場面のおもしろいところや、登場人物の気持ちのへん化をしめしていることがあるので、意識して読んでみましょう。自分が読んだ本については、内ようをまとめてたり友だちにすすめたりすることも力をのばすことにつながります。
また、じ書を使うようにして、意味が分からない言葉やことわざなどがでてきたら、調べるようにするとよいでしょう。

今後の学習に生かせるように、一人一人に応じた学習に関するアドバイスが示される。

児童生徒に配布される個人結果票の例（小学校第6学年国語）

昨年度も実施している児童生徒の場合

国語 今までの学力の変化 教科に関する調査結果

あなたの学力は、「レベル7」まで伸びました。

		小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生
高 ↑ 学 力 ↓ 低	レベル12					
	レベル11					
	レベル10					
	レベル9					
	レベル8					
	レベル7					
	レベル6					
	レベル5					
	レベル4					
	レベル3					
	レベル2					
	レベル1					

学力がどのレベルまで伸びたかを記載している。

昨年度に続いて今年度の学年の欄に学力レベルが示されている。赤いバーの上下の推移により学力の変化を見ることができる。

教科の領域別正答率など

あなたの問題数	問題数	あなたの正答率(%)	県全体の平均正答率(%)	あなたのかけた時間	県平均のかけた時間	
ア	9	15	60.0	74.0	11分35秒	08分08秒
イ	1	2	50.0	55.0	01分16秒	01分11秒
ウ	4	5	80.0	76.0	11分03秒	11分22秒
エ	6	9	66.7	70.0	16分04秒	15分19秒
全体	20	31	64.5	71.9	39分30秒	38分00秒

領域別の解答時間分布 (調査時間40分)

自分 県平均

県全体の正答率分布

正答率(%)

あなたの正答率は、県全体の正答率分布の■に含まれています。

県平均と比べて時間をかけた問題

領域等	読むこと	領域等	読むこと
問題の概要	指示語が指す内容を選択する	問題の概要	動画を見て、文中のどの事象を説明しているか選択する
見直し回数	0	見直し回数	0
正解	正	正解	誤
県正答率	90.0%	県正答率	70.0%
かけた時間	03分21秒	かけた時間	01分58秒
	かけた時間	県平均	01分19秒
		県平均	00分55秒

昨年度からの学習状況を踏まえて、今後の学習に生かせるように、一人一人に応じた学習に関するアドバイスが示される。

学習に関するアドバイス

あなたの国語の学力は、昨年度1年間の学習により、大変大きく伸びています。自分の学習への取組に自信をもち、よさをさらに伸ばせるよう、今後も授業などの学習活動に積極的に取り組んでいきましょう。

話すこと・聞くこと、書くことは、大変よくできました。さらに力をのびすために、話し合いをする時には、自分の役割に応じて工夫して話すように心がけましょう。例えば、自分の考えをはっきり示してから理由を言ったり、発言内容を短くまとめたりするとよいです。書くことの学習では、図表やグラフなどの資料から読み取った内容をもとにして自分の考えを書けるようにしましょう。

また、漢字がどのように作られているかを考えて、漢字のへんやつくりなどを漢和辞典などで調べるとよいでしょう。また、ことわざや慣用語などの意味を調べ、ふだんの生活や学習で使えたとさらによいでしょう。

個人結果票の返却の際のポイント

「個人結果票」は、児童生徒一人一人の調査結果を、児童生徒や保護者、先生方にお知らせするものです。

児童生徒、保護者に返却する際には、ただ手渡して終わりではなく、可能な限り、個人結果票の記載をもとに個別に話をする時間を取るようによしてください。

先生方は、児童生徒一人一人のつまずきを早期に発見し、改善を図ることができるように活用してください。

児童生徒には

○本調査の特長を伝えます。

- ・「学力の伸び」が分かる調査であること
- ・現在の「学力のレベル」が分かる調査であること

○一人一人の1年間のがんばりや伸び（実施2年目以降の学校）を認め、ほめます。

その後、苦手領域を中心に家庭学習にも取り組むように言葉かけをします。

○今後の学習に対する個別のアドバイスをします。

保護者には

○可能な限り時間をかけて、子どものよさを伝えます。

○子どものがんばりや伸び（実施2年目以降の学校）を認め、ほめた後、課題についても端的に伝えます。

○伸びたところをほめる（実施2年目以降の学校）とともに、苦手領域を中心に家庭学習にも取り組むことの重要性を伝えます。

◇とっとり学力・学習状況調査は、過去の自分と現在の自分の学力を比較できる設計となっています。（実施2年目以降）一人一人の児童生徒に対して、個人結果票を活用して学力の変化の状況についての適切な働きかけを行うことにより、今後の学力向上につなげていただきたいと考えています。

◇学力の変化を見ながら、伸びた児童生徒に対しては認める・ほめることを通じて自信を持たせ、伸びていない児童生徒に対しては、教育相談等を行うことでつまずきや悩み等を共有し、取組に対して丁寧な見取りを行う等をしてください。

(2) 主体的・対話的で深い学びの実施と 非認知能力・学習方略に関する分析について

平成27年度から本調査を実施している埼玉県教育委員会が、平成27年度から平成30年度に得られた毎年約30万人分の調査データを、統計学や教科教育の専門的な研究機関である慶應大学のSFC研究所へ委託して分析を行った結果、次のようなことが分かってきました。鳥取県教育委員会では、このような先進的な知見を生かし、非認知能力や学習方略の課題解決を通して、学力の向上に取り組んでいきます。

◆「主体的・対話的で深い学び」は、子どもたちの「非認知能力」や「学習方略」の向上を通して、学力を向上させる。

(下図①～④)

◆「学級経営」が、「主体的・対話的で深い学び」の実現や、子どもたちの「非認知能力」「学習方略」の向上に重要である。

(下図⑤～⑦)

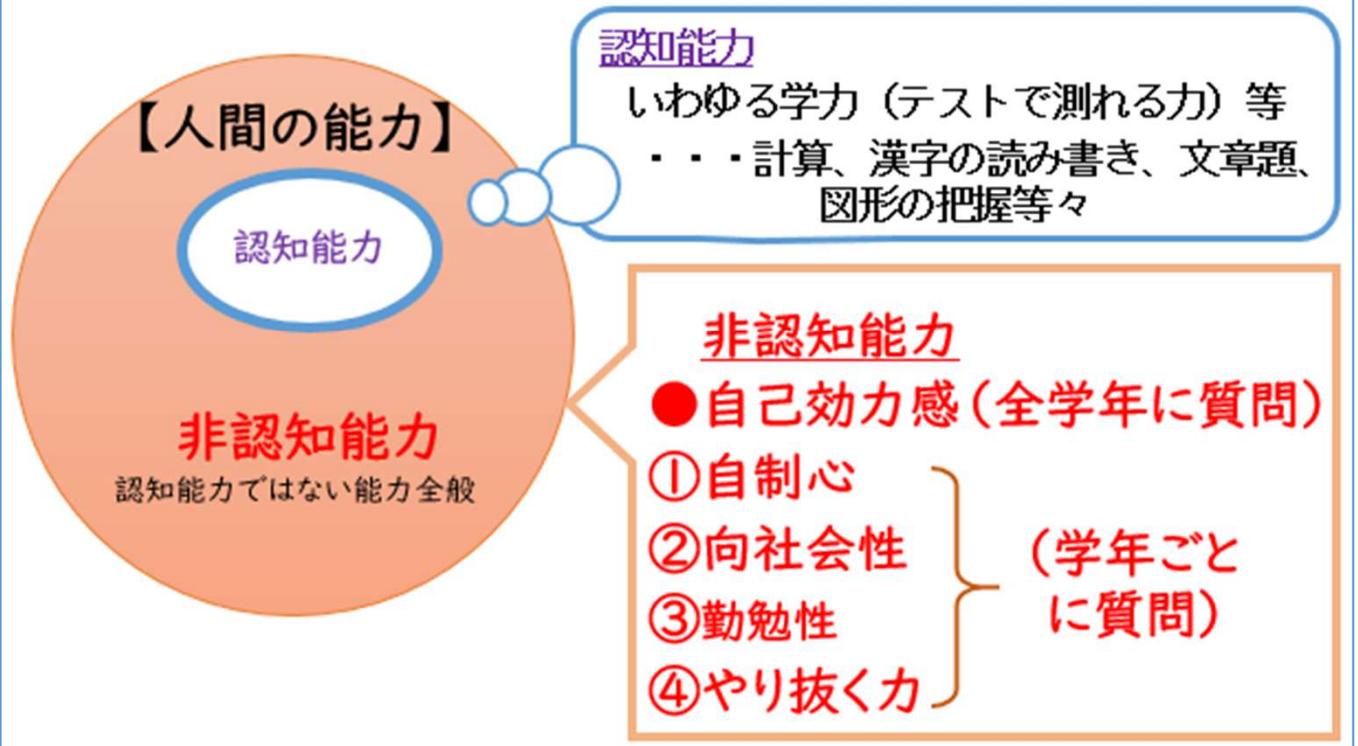
⇒「学級経営」がよいほど、「主体的・対話的で深い学び」が実現しやすい。

⇒「学級経営」がよいほど、「非認知能力」「学習方略」を伸ばしやすい。



埼玉県の調査結果分析から、「主体的・対話的で深い学び」の実施に加えて、「学級経営」が、子どもの「非認知能力」「学習方略」を向上させ、学力向上につながるということが明らかとなっています。

【とっとり学力・学習状況調査で測る非認知能力】



「学習方略」

効果を高める学習の仕方や工夫・態度の育成

柔軟的方略

分からないところを重点的に学習する、方法を自分で選択・工夫してみる等。自分の状況に合わせて学習の仕方を柔軟に考えていく活動。

プランニング方略

自分で決めた計画に沿って進める、一度やったところを途中で見直す、出来具合を確かめる等。計画を立てて学習に取り組む活動。

作業方略

ノートや作品にまとめる、声に出す、繰り返し書く、本や辞典などで調べるなど。「作業」を中心に学習を進める活動。

認知的方略

学習内容を自分なりの言葉で表現する。既習事項や生活・体験と繋げながら考える等。自分の理解度をより深めるような学習活動。

努力調整方略

分からないこと・難しいことがあっても諦めずに継続して学習する等。「苦手」等の感情をコントロールして学習への意欲を高める活動。

【非認知能力・学習方略】

学習の下支えとなる力であり、成長を促すもの。

学力の向上には、非認知能力や学習方略が高まることが大きく関わっていることが、データの分析から明らかになっています。



【帳票40】を活用することで、児童生徒一人一人の非認知能力や学習方略について分析することができます。

ここでは、分析に使用されている項目（主体的・対話的で深い学びの実施、非認知能力、学習方略）について説明します。

それぞれの項目の調査結果の活用については、この後説明している『帳票を活用した分析について』を参考にして、一人一人の主体的・対話的で深い学びの実施や非認知能力、学習方略等の強みや課題を見だし、強みをさらに伸ばしたり、課題の解決に向けて取り組んだりすることに生かしてください。それが学力向上につながると考えられます。

【1】 主体的・対話的で深い学びの実施について

学級における主体的・対話的で深い学びの実施状況を数値化した値です。

* 児童生徒質問調査の回答から算出した値のため、教師が実施したかどうかではなく、児童生徒が実施についてどう受け止めていたかという値になります。

主体的・対話的で深い学びの実施	* 学年により、質問項目が異なります。
<p>【児童生徒質問調査の項目(例)】 あなたの〇年生の時の〇〇の授業では、次のようなことがどれくらいありましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の始めに、今日はどんな学習をするのかを把握してから学習に取り組んだこと ・授業の終わりに、授業で学んだことを振り返り、自分がわかったことやわからなかったことを自覚したこと ・わからないことなどを質問しやすい雰囲気で行われたこと ・教材やワークシートがあることで、学習しやすくなったこと ・グループやペアで、話し合ったり、意見や考えを出し合ったりして課題を解決したこと ・課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをしっかりとるようになったこと ・話し合いや集めた資料から、自分の考え方が変わったり、深まったりしたこと ・授業を通して学んだ内容について、さらに詳しく知りたい、学びたいと思ったこと ・授業で学んだことが、以前に学習した知識とつながったこと ・授業で学んだことを、日常の生活に生かせると感じたこと 	

【2】 非認知能力について

テストで計測される学力やIQなどとは違い、自分の感情をコントロールして行動する力があるなど性格的な特徴のようなものです。本調査では令和4年度から**全学年**を対象に「**自己効力感**」を、**学年別に「自制心」「向社会性」「勤勉性」「やりぬく力」**の4種類について質問しています。

● 自己効力感	自分はそれが実行できるという期待や自信 (例) 難しい問題でも自分ならできると考えられる など
<p>【児童生徒質問調査の項目】全学年対象に質問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業ではよい評価をもらえるだろうと信じている ・教科書の中で一番難しい問題も理解できると思う ・授業で教えてもらった基本的なことは理解できたと思う ・先生が出した一番難しい問題も理解できると思う ・学校の宿題や試験でよい成績をとることができると思う ・学校でよい成績をとることができるだろうと思う ・授業で教えてもらったことは使いこなせると思う ・授業の難しさ、先生のこと、自分の實力などを考えれば、自分はこの授業でよくやっているほうだと思う 	

①自制心	自分の意思で感情や欲望をコントロールすることができる力 (例) イライラしていても人に八つ当たりしない など
【児童生徒質問調査の項目】令和7年度の小学校4年生、6年生に質問 <ul style="list-style-type: none"> ・授業で必要なものをわすれた ・他の子たちが話をしているときに、その子たちのじゃまをした ・何からん暴なことを言った ・つくえ・ロッカー・部屋が散らかっていたので、必要なものを見つけることができなかった ・家や学校で頭にきて人や物にあたった ・先生が、自分に対して言っていたことを思い出すことができなかった ・きちんと話を聞かないといけないときにぼんやりしていた ・イライラしているときに、先生や家の人（兄弟姉妹は入りません）に口答えをした 	
②向社会性	他人や他の人々の集団を助けようとしたり、人々のためになることをしようとしたりする力。(例) 誰に対しても親切にするようにしている など
【児童生徒質問調査の項目】令和7年度の小学校5年生、中学校2年生に質問 <ul style="list-style-type: none"> ・私は、誰に対しても親切にするようにしている。私は、その人の気持ちをよく考える ・私は、他の子たちと本や遊び道具などを共有する ・私は、誰かが心を痛めていたり、落ち込んでいたり、嫌な思いをしているときなど、進んで助ける ・私は、年下の子たちに対して、優しくしている ・私は、自分から進んで親・先生・友達のお手伝いをする 	
③勤勉性	やるべきことをきちんとやることができる力 (例) 宿題が出されたらきちんと終わらせる など
【児童生徒質問調査の項目】令和7年度の中学校3年生に質問 <ul style="list-style-type: none"> ・うっかりまちがえたりミスしたりしないように、やるべきことをやります ・ものごとは楽しみながらがんばってやります ・自分がやるべきことにはきちんとかかわります ・授業中は自分がやっていることに集中します ・宿題が終わったとき、ちゃんとできたかどうか何度もかくにんをします ・ルールや順番は守ります ・だれかと約束をしたら、それを守ります ・自分の部屋やつくえのまわりはちらかっています ・何かを始めたら、ぜっ対終わらせなければいけません ・学校で使うものはきちんと整理しておくほうです ・宿題を終わらせてから、遊びます ・気が散ってしまうことはあまりありません ・やらないといけないことはきちんとやります 	
④やりぬく力	自分の目標に向かって粘り強く情熱をもって成し遂げられる力 (例) 失敗を乗り越えられる など
【児童生徒質問調査の項目】令和7年度の中学校1年生に質問 <ul style="list-style-type: none"> ・大きな課題をやりとげるために、しっばいを乗り越えてきました ・新しい考えや計画を思いつくと、前のことから気がそれてしまうことがあります ・きょう味をもっていることやかん心のあることは、毎年かわります ・しっばいしても、やる気がなくなってしまうことはありません ・少しの間、ある考えや計画のことで頭がいっぱいになっても、しばらくするとあきてしまいます ・何事にもよくがんばるほうです ・いったん目ひょうを決めてから、そのあとべつの目ひょうにかえることがよくあります ・終わるまでに何か月もかかるようなことに集中しつづけることができません ・始めたことは何でもさい後まで終わらせます ・何年もかかるような目ひょうをやりとげてきました ・数か月ごとに、新しいことにきょう味をもちます ・まじめにコツコツとやるタイプです 	

【3】 学習方略について

児童生徒が学習効果を高めるために意図的に行う活動（学習方法や態度）のことです。とっとり学力・学習状況調査では、「柔軟的方略」「プランニング方略」「作業方略」「認知的方略」「努力調整方略」の5つに分類しています。

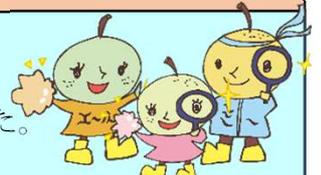
<p>①柔軟的方略</p>	<p>自分の状況に合わせて学習方略を柔軟に変更していく活動 (例) 勉強の順番を変えたり、分からないところを重点的に学習したりする など</p>
<p>【児童生徒質問調査の項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勉強のやり方が、自分に合っているかどうかを考えながら勉強する ・勉強でわからないところがあったら、勉強のやり方をいろいろ変えてみる ・勉強しているときに、やった内容を覚えているかどうかを確かめる ・勉強する前に、これから何を勉強しなければならないかについて考える 	
<p>②プランニング方略</p>	<p>計画的に学習に取り組む活動 (例) 勉強を始める前に計画を立てる など</p>
<p>【児童生徒質問調査の項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勉強するときは、最初に計画を立ててから始める ・勉強をしているときに、やっていることが正しくできているかどうかを確かめる ・勉強するときは、自分で決めた計画に沿って行う ・勉強しているとき、たまに止まって、一度やったところを見直す 	
<p>③作業方略</p>	<p>ノートに書く、声を出すといった「作業」を中心に学習を進める活動 (例) 大切なところを繰り返し書く など</p>
<p>【児童生徒質問調査の項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勉強するときは、参考書や事典などがすぐ使えるように準備しておく ・勉強する前に、勉強に必要な本などを用意してから勉強するようにしている ・勉強していて大切だと思ったところは、言われなくてもノートにまとめる ・勉強で大切なところは、繰り返して書くなどして覚える 	
<p>④認知的方略</p>	<p>より自分の理解度を深めるような学習活動 (例) 勉強した内容を自分の言葉で理解する など</p>
<p>【児童生徒質問調査の項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勉強するときは、内容を頭に思い浮かべながら考える ・勉強するときは、内容を自分の知っている言葉で理解するようにする ・勉強してわからないことがあったら、先生にきく ・新しいことを勉強するとき、今までに勉強したことと関係があるかどうかを考えながら勉強する 	
<p>⑤努力調整方略</p>	<p>「苦手」などの感情をコントロールして学習への意欲を高める活動 (例) 分からないところも諦めずに継続して学習する など</p>
<p>【児童生徒質問調査の項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の勉強をしているとき、とてもめんどろでつまらないと思うことがよくあるので、やろうとしていたことを終える前にやめてしまう ・今やっていることが気に入らなかったとしても、学校の勉強でよい成績をとるために一生懸命がんばる ・授業の内容が難しいときは、やらずにあきらめるか、簡単などころだけ勉強する ・問題が退屈でつまらないときでも、それが終わるまでなんとかやり続けられるように努力する 	

とっとり学力・学習状況調査の調査結果の分析から、学力の向上には非認知能力、学習方略が強く関係していることや、自己効力感を伸ばしている児童生徒は学力を伸ばすだけでなく、他の非認知能力や学習方略も伸ばしていることが見えてきました。

県教育委員会では、各学校において非認知能力、学習方略等に注目した取組をさらに進めていくことができるよう、いつでも何度でも非認知能力等について調査し児童生徒一人一人の変化を見取ることができるアプリ「見え～る」を開発し、配信しています。



【1】 とっとり学力・学習状況調査の分析から得られた知見



非認知能力・学習方略について、調査の分析結果より、以下の知見が得られました。

- ①学力の向上には非認知能力、学習方略が強く関係している。
- ②学力を維持向上できている児童生徒は、学力が伸び悩んでいる児童生徒と比べ、早い段階から非認知能力や学習方略が高い傾向にある。
- ③自己効力感を伸ばしている児童生徒は、学力も伸ばしており、他の非認知能力や学習方略も伸ばしている。

【2】 とっとり学力・学習状況調査に係る非認知能力等調査アプリ「見え～る」

とっとり学力・学習状況調査で調査している非認知能力や学習方略等について、各学校で調査することができるアプリです。

本アプリでは、調査したい非認知能力や学習方略等を選択して、いつでも何度でも調査し、児童生徒一人一人の変化をグラフで見ることが可能であり、非認知能力等の変化を調査・分析し、年間の児童生徒の変化や伸びに着目した教育活動とともに、校内研究の指標等において活用することができるようになりました。

年間の一人一人の変化や伸びに着目！

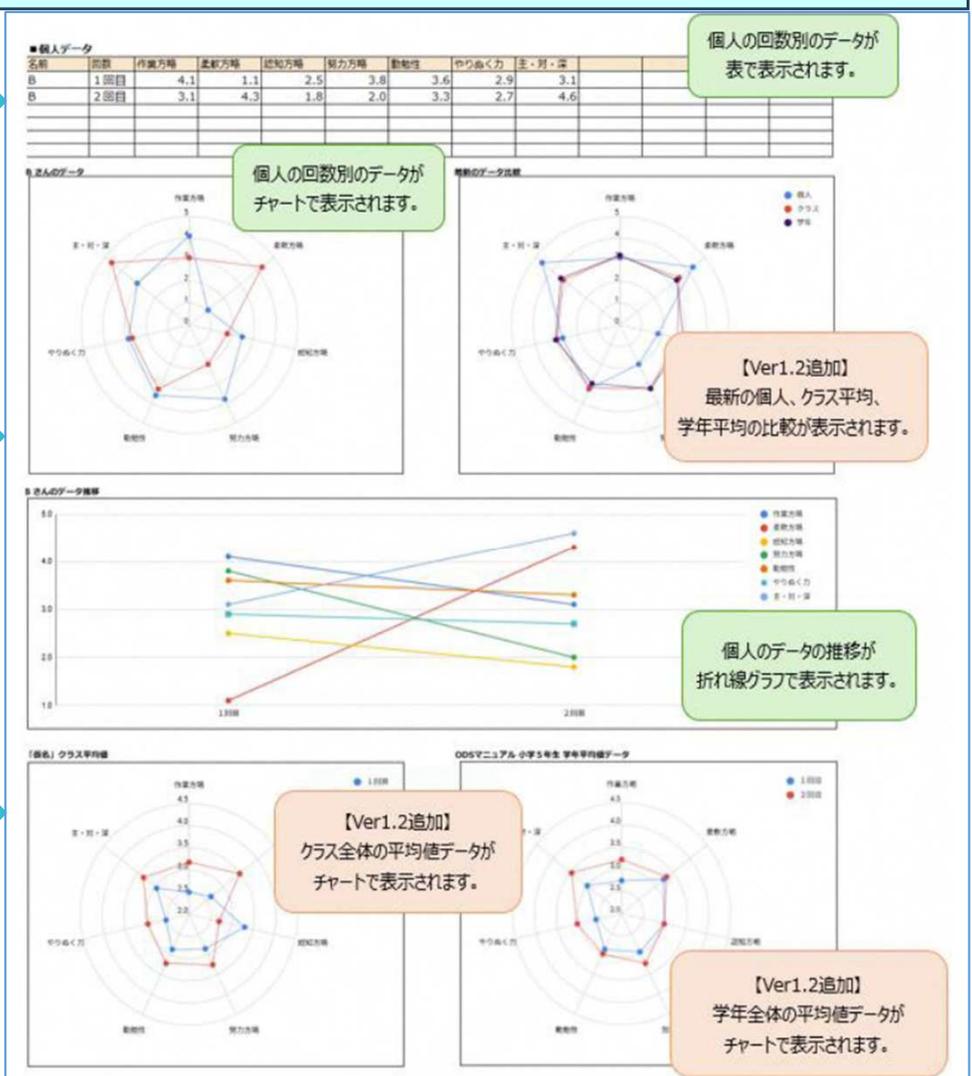
何度でも調査できるので、年間の変化を把握することができます。

校内研究の成果指標に！

学力だけでなく、非認知能力等も指標にしたり、結果をもとにPDCAサイクルを回したりすることができます。

3月に調査することで分析精度アップ！

年度内の結果や変化が調査できるので、新年度の影響がない状況で把握することができます。



(3) 帳票を活用した分析について

とっとり学力・学習状況調査の結果資料にはたくさんの種類の「帳票」がありますが、その中でも「帳票28」「帳票40」「帳票42」の3つの帳票をしっかりと分析することで、調査結果を学力向上に生かすために必要な情報の多くを得ることができます。中でも「帳票40」は結果分析の基本となる重要な帳票ですので、まずは「帳票40」の分析を行うことから始めてください。

①個々の児童生徒の現状と伸びを把握し、分析する【帳票40】

- ・本年度の結果を分析し、学級の児童生徒の現状を把握
- ・前年度からの学力の伸びを見ながら、伸びが大きい(小さい)児童生徒を確認
- ・学習方略・非認知能力の変化量が大きい(+・-)児童生徒を確認
 - 学力の伸びと学習方略・非認知能力の変化量を合わせて、個々の状況の見取り
 - 担任がすでに支援が必要であると認識している児童生徒かどうかの確認
(観察だけでは見抜けなかった支援の必要性に気づける場合あり)
 - 対応の必要性と、その場合の対応策の検討

②学年全体の学力の伸びを把握し、分析する【帳票28】

- ・学年別、教科別の学力の伸びと学習の状況について、学年全体の概要を把握
- ・県の学力の伸びの様子と比較して特徴が見られる部分を確認

③学級の学力の伸びを把握し、分析する【帳票40,42】

- ・帳票40のデータを見ながら、学級全体の学力の伸び、学習方略・非認知能力、主体的・対話的で深い学びの実施状況を確認
- ・帳票42で昨年度からの学力の伸びを見ながら、伸びの大きい学級、変化量が大きい学級を確認
- ・学力の伸びが見られた学級や教科を確認
- ・昨年度目標を立てて取り組んだ成果について把握し、継続すること、見直すことを見極める。また、結果について、その要因を考察し、効果のあった取組を共有

*「帳票42」は実施2年目以降の学校のみ配布されています。

「帳票40」を活用した分析（小学校4年生、実施1年目の学校）

「帳票40」には、主体的・対話的で深い学びの実施、非認知能力、学習方略の児童質問調査の回答状況が示されています。とっとり学力・学習状況調査から見られる一つの側面ではありますが、数値が低い項目が課題となっている可能性があります。

例えば、下の表で**自制心、学習意欲(算数)(非認知能力)**が低い児童は、国語のレベルは9-Cですが、算数のレベルは6-Bとなっており、**自制心及び学習意欲(算数)**を高めれば、算数のレベルが上昇する可能性があります。

各学校においては、「帳票40」を用いて、児童の非認知能力や学習方略等の課題を分析し、その課題を解決するための取組を行ってください。

※「帳票40」の見方

- ・数値の範囲は1.0～5.0(5.0が最もよい数値)
- ・数値は児童生徒質問調査でそれぞれ5段階(1～5)の回答を集約したもの

令和 年度とっとり学力・学習状況調査(小学校4年生)

学力分析データ(学力レベル・伸び・学習方略・非認知)児童生徒別

鳥取県教育委員会

学年	国語 R レベル	算数・数学 R レベル	R 結果									
			主体的・対話的で深い学びの実施	学習方略						非認知能力		
				柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	-	認知的方略	努力調整方略	自己効力感 (参考値)	やり抜く力 (参考値)	
4	9-C	6-B	4.1	4.2	3.8	4.3	-	4.3	3.8	2.0	1.8	-
4	8-C	6-C	2.5	3.1	3.0	2.8	-	2.8	3.0	4.3	4.2	-
4	7-B	5-A	3.4	1.6	1.7	2.8	-	3.3	2.6	3.2	3.4	-

主体的・対話的で深い学びの実施の数値が他の項目より低く、課題となっている可能性がある。

柔軟的方略、プランニング方略(学習方略)の数値が他の項目より低く、課題となっている可能性がある。

自己効力感、やり抜く力の数値が他の項目より低く、課題となっている可能性がある。

☆他の項目に比べて極端に数値が低い項目や、平均に比べて低く出ている項目など課題になっていると思われる項目を抽出し、児童生徒の現状把握と個別の指導や支援に生かしましょう。

40 学校用

令和〇年度とつり学力・学習状況調査(小学校6年生)

学力分析データ(学力レベル・伸び・学習方略・非認知) 児童生徒別

〇〇立〇〇小学校

本帳票の「主体的・対話的で深い学びの実施」「学習方略」「非認知能力」の数値の範囲は、1.0～5.0となっています。

数値が高いほど、よい値となっています。

「昨年度からの学力の伸び」がマイナスの場合は、赤字で表記しています。

年度	市町村教育委員会コード	市町村教育委員会名	学校コード	学校名	R〇在籍情報					R△在籍情報				
					個人番号	学年	組	出席番号	性別	個人番号	学年	組	出席番号	性別
2022	02	〇〇教育委員会	032100123	〇〇立〇〇小学校	1767745	6	1	1	2	1767745	5	1	1	2
2022	02	〇〇教育委員会	032100123	〇〇立〇〇小学校	1767746	6	1	2	2	1767746	5	1	5	2
2022	02	〇〇教育委員会	032100123	〇〇立〇〇小学校	1767747	6	1	3	1	1767747	5	2	3	1
2022	02	〇〇教育委員会	032100123	〇〇立〇〇小学校	1767749	6	1	4	1	1767749	5	2	5	1
2022	02	〇〇教育委員会	032100123	〇〇立〇〇小学校	3419788	6	1	5	1	-	-	-	-	-
2022	02	〇〇教育委員会	032100123	〇〇立〇〇小学校	1767769	6	1	6	1	1767769	5	2	26	2
2022	02	〇〇教育委員会	032100123	〇〇立〇〇小学校	1767750	6	1	7	2	1767750	5	1	9	1

★まずは各児童生徒の教科ごとの「伸び」を確認しましょう

- ・県や学校の伸びと比較して学力レベルをチェック
- ・県や学校の伸びと比較して伸び率をチェック
- ・大きく伸びた教科、2教科の学力レベルのバランスをチェック
(得意・不得意な科目の把握、伸びに偏りがいないかを確認)

	国語			算数・数学		
	R〇レベル	昨年度からの学力の伸び	R△レベル	R〇レベル	昨年度からの学力の伸び	R△レベル
学校平均	7-B	2	6-A	6-A	3	5-A
市町村平均	7-B	1	7-C	7-C	3	6-C
●●県平均	7-B	1	7-C	7-C	4	5-A
	7-C	4	5-A	7-A	4	6-B
国・算バランスよく伸びている	7-A	5	6-C	7-C	5	5-B
算数に苦手意識が出てきた可能性あり	8-C	4	6-A	5-A	-1	6-C
国・算のバランス悪く、国語が課題	3-C	0	3-C	6-C	2	5-B
国・算ともに大きく伸びている	9-B	8	6-A	7-A	7	5-B

教科のバランスが悪い場合は、個別支援の必要性を考える必要があります。

「帳票40」 ☆学力レベルと学習方略・非認知能力を合わせて分析

国語		算数・数学				R→R (変化量)										
R レベル	昨年度からの学力の伸び	R レベル	R レベル	昨年度からの学力の伸び	R レベル	主体的・対話的で深い学びの実施	学習方略						非認知能力			
							柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	人際リソース方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	勤働性	自制心	
	7-B	2	6-A	6-A	3	5-A	0.0	0.0	-0.1	0.1	-	-0.1	-0.1	-	-1.6	-
	7-B	1	7-C	7-C	3	6-C	-0.1	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0	-	-1.7	-
	7-B	1	7-C	7-C	4	5-A	-0.1	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0	-	-1.5	-
A	7-C	4	5-A	7-A	4	6-B	0.9	-0.3	1.2	0.2	-	-0.7	0.5	-	-2.2	-
B	7-A	5	6-C	7-C	5	5-B	0.4	0.5	0.3	0.0	-	0.5	0.2	-	-2.3	-
C	8-C	4	6-A	5-A	-1	6-C	0.8	-1.0	-0.5	-0.5	-	0.3	-0.7	-	-2.0	-
D	3-C	0	3-C	6-C	2	5-B	-0.2	2.3	1.0	1.0	-	0.5	-0.8	-	3.1	-
E	9-B	8	6-A	7-A	7	5-B	-0.1	-0.2	-0.5	-0.5	-	-0.8	0.2	-	-0.7	-

横に見ていくと、個人の伸びや課題が確認できる

Eの児童は、昨年度よりも大きく学力を伸ばしているが、主体的・対話的で深い学びの実施、非認知能力・学習方略の数値が、ほぼすべての項目で下がっている。

この児童は今後学力の伸びが少なくなる可能性も考えられる。今の良い状況だけに捉われず、今後の可能性も踏まえて指導や支援に当たっていくことが必要。

縦に見ていくと、項目ごとの学級全体の伸びや課題が確認できる

「勤働性」の数値がほぼ全員下がっており、何らかの要因があることが考えられる。

様々な要因が考えられるが、客観的な数値の状況から、教員が自らの指導を振り返り、授業改善等に生かしていくことが必要。

	R 結果									R 結果										
	学習方略			非認知能力			学習方略			非認知能力										
	柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	人際リソース方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	勤働性	自制心	柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	人際リソース方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	勤働性	自制心		
	4.1	3.5	3.6	3.5	-	3.8	4.0	3.2	2.1	-	4.1	3.6	3.7	3.5	3.0	3.9	4.1	-	3.7	-
	3.9	3.4	3.4	3.4	-	3.7	4.0	3.3	2.2	-	4.0	3.4	3.5	3.4	3.1	3.7	4.0	-	3.9	-
	3.8	3.3	3.4	3.4	-	3.7	3.9	3.3	2.2	-	3.9	3.3	3.4	3.4	3.1	3.7	3.9	-	3.7	-
A	4.5	3.0	4.5	3.0	-	2.8	4.3	3.3	1.9	-	3.6	3.3	3.3	2.8	2.3	3.5	3.8	-	4.1	-
B	4.6	4.8	4.8	4.3	-	5.0	5.0	3.0	2.1	-	4.3	4.3	4.5	4.3	3.8	4.5	4.8	-	4.4	-
C	4.2	1.0	4.0	2.0	-	3.3	3.3	3.8	1.4	-	3.4	2.0	4.5	2.5	2.3	3.0	4.0	-	3.4	-
D	4.2	3.3	2.8	2.0	-	3.3	2.0	4.0	4.6	-	4.4	1.0	1.8	1.0	1.3	2.8	2.8	-	1.5	-
E	3.8	2.8	2.8	2.8	-	2.5	3.5	2.4	2.6	-	3.9	3.0	3.3	3.3	3.5	3.3	3.3	-	3.3	-

今年度のデータ

前年度のデータ

変化量だけでなく、数値そのものをチェックすることで、強み・弱みの確認をすることができる。(現時点での良さ・課題の把握)

Dの児童は変化量は大きいですが、数値自体が依然として低いため、支援を継続していく必要がある。Bの児童は変化量自体は少ないが、5点の項目が複数あり、力が付いていることが伺える。

前年度分析したデータを基に、チェックした項目がどのように変化したかを確認することができる。(経年変化の把握)

前年度の結果から個別に指導・支援を行ってきた児童や、学級全体で重点的に取組を行った項目について、その指導・支援の成果がどのように出ているかを、数値の変化量と共に経年で把握することができる。

学力の伸びと非認知能力・学習方略の変化を合わせて見ることで、個別の児童生徒や学級・学年ごとの指導や取組の成果がどのように表れたかを把握することができます。作成した『授業改善シート』を基に取り組んだことの成果も確認し、効果があったと思われる良い取組は、継続して取り組んだり、全校に広げたりして共有していきましょう。

(4) 校内での活用方法について

参考資料: 令和7年度埼玉県学力・学習状況調査報告書(埼玉県教育委員会)

【帳票40】を用いて各担任が分析を行った後、その他の帳票も活用して、学年団などのグループで分析を行い、その結果を学校全体で共有し、活用します。分析結果から、効果のあった取組や伸ばしている先生が行っている取組を、数値の裏付けを基に共有し、良い取組を学校全体に広げていくことが大切です。良いものはみんなで共有し、児童生徒に還元していきましょう。

【帳票40】を用いた各担任の分析をもとに・・・

分析

① 学年全体の伸びを把握し、分析する。→【帳票28】

- ・ 学年別、教科別の伸びの様子がグラフで示されています。
- ・ 県の様子と比較して特徴が見られる部分を確認します。

② 学級の伸びを把握し、分析する。→【帳票42(新帳票)】

- ・ 帳票を前年度の学級ごとに並べ替え、「伸びの平均」や「伸びた児童生徒の割合」が計算されています。
- ・ 伸びが見られた学級や教科を確認します。

2年目以降の学校

活用

○ 伸ばした先生が行っている効果的な取組を学校全体で共有する。

- ・ 伸ばした学級や教科の担当者からの聞き取りや、伸ばした教員の授業参観等を行い、効果的な取組を共有します。

その他

分析支援プログラムを活用し、さらに課題を見つけ改善を図る。

- ・ 「学力」「学力の伸び」「学習方略」「非認知能力」「生活習慣」等の関係から、自校の成果や課題を見つけます。

★分析方法や校内での共有の具体的な実践例は、この後の「特徴的な学校の取組」等でも紹介していますので参考にしてください。

分析①

【帳票28】を活用した分析

・学年全体の伸びを把握し、分析する

○【帳票28】「各実施主体の調査結果票」から自校の概要を捉える。

→ 「平均学力レベルの状況」や「学力階層別の状況」を分析する。

(1) 平均学力レベルの状況

【分析①】学力の伸び幅の違い

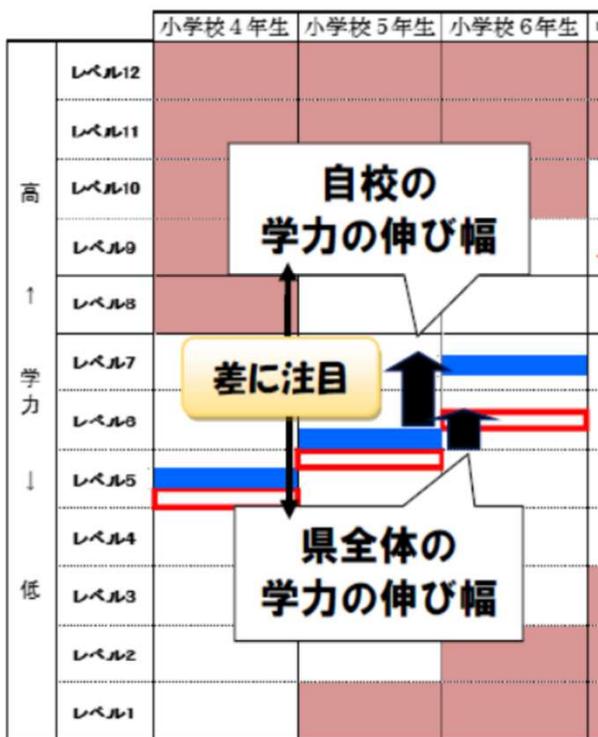
→ 伸び幅が県平均よりも大きい学年や教科を見付ける。

【分析②】学力レベルの違い

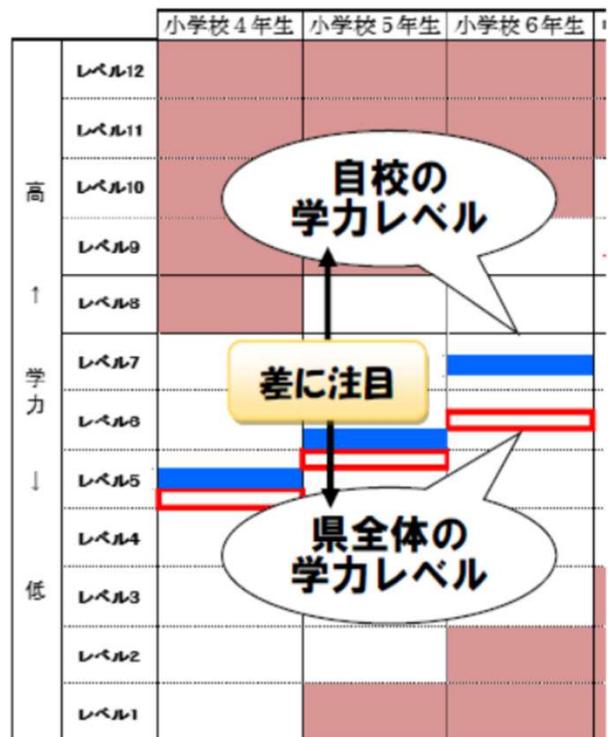
→ 学力が県平均を上回っている学年や教科を見付ける。

→ 学力が他学年の同時期を上回っている学年や教科を見付ける。

【分析①】学力の伸び幅の違い



【分析②】学力レベルの違い



※【帳票27】では、異なる年度の同学年と、学力のレベルを比較することができます。

※【帳票33】では、学力を伸ばした児童生徒の割合や、学年全体の学力の伸びが分かります。

「伸び幅が大きい」、「学力のレベルが高い」といった学年や教科は、効果的な指導や取組を行っている可能性があります！

(2) 学力階層別の伸びの状況

【分析①】 学力階層別の伸びの状況

→ 各学年の中で傾きが大きい学力層を見つける。

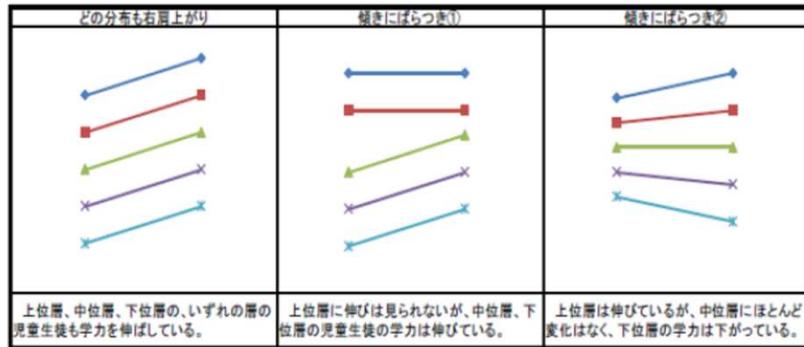
【分析②】 鳥取県のグラフの傾きとの比較

→ 県平均より傾きが大きい学年や教科を見つける。

【分析③】 各学力層の学力レベル

→ 県と比較して、学力レベルが全体的に高い／低い、学力階層によってレベルが高い／低いなどの傾向を見つける。

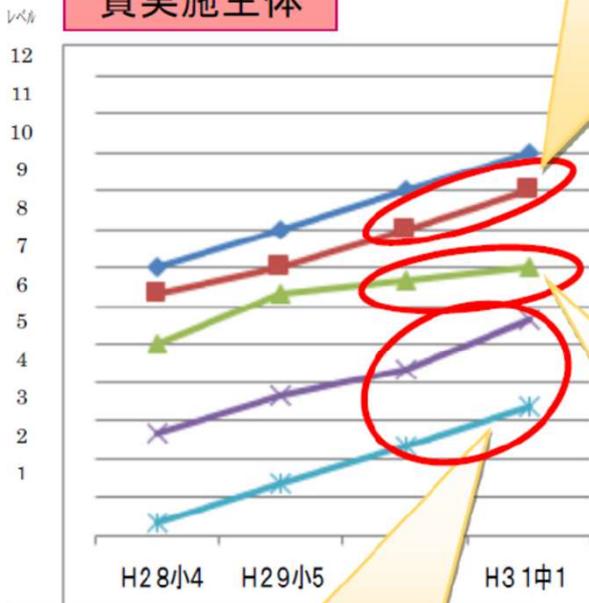
<グラフの見方>



- ◆ ⇒ 最大値（最も学力が高い児童生徒が属する学力レベル）
- ⇒ 75%値（学力の高い順に並べたときに、上から数えて25%にあたる児童生徒が属する学力レベル）
- ▲ ⇒ 中央値（学力の高い順に並べたときに、上から数えて50%にあたる児童生徒が属する学力レベル）
- × ⇒ 25%値（学力の高い順に並べたときに、上から数えて75%にあたる児童生徒が属する学力レベル）
- ★ ⇒ 最小値（最も学力が低い児童生徒が属する学力レベル）

分析例

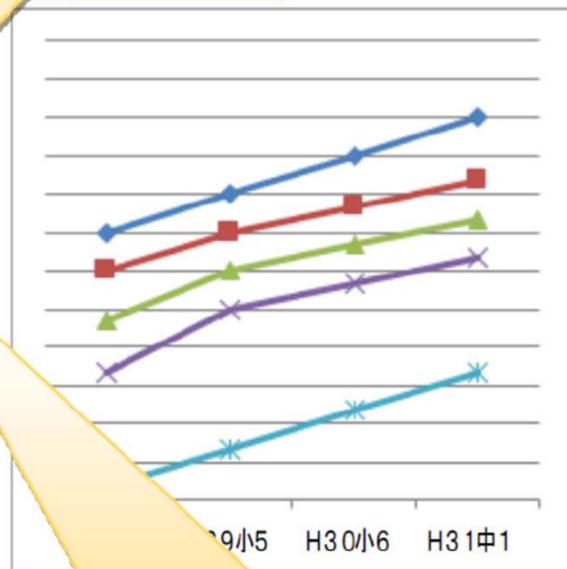
貴実施主体



下位層のグラフの傾きが
県のグラフの傾きより大きい
⇒下位層への充実した支援が
あったのではないかな。

学年の中で上位層の学力のレベルが高い
⇒上位層を伸ばす工夫があったのではないかな。

鳥取県



中位層の学力が伸び悩んでいる
⇒前学年でのつまづきがあるのではないかな。

※【帳票26】では、各学年・各教科の「学力の伸びの状況」を一覧で見ることができます。

42 学校用

前年度の学級で並べ替え

令和〇年度とつり学力・学習状況調査(旧小学校5年生)

学力分析データ(前年度在籍学年・クラスを単位とした伸び・学習方略・非認知)

〇〇市立△△小学校

年度	学校名	R△ 学年	R△ 組	R△児童 生徒数	学力を伸ばした 児童生徒の割合 (%)		学力の伸び率 (RO学力レベルとR△学力 レベルの差の平均)		RO学力レベル 平均		R△学力レベル 平均	
					国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
					●●県平均		64.7	81.6	1.5	3.1	19.7	18.3
□□	〇〇市立△△小学校	5	1	30	35.7	84.5	-0.6	3.8	19.1	19.3	19.6	15.4
□□	〇〇市立△△小学校	5	2	29	44.2	82.9	0.2	3.6	20.2	18.4	19.0	14.8
□□	〇〇市立△△小学校	5	3	29	83.2	93.4	2.5	4.5	21.7	20.1	19.3	15.6

【例】3組は、ベテランの担任が担当クラスの学力等を順調に伸ばしている
⇒学級経営、教科指導の力を持った教員の熟練の技やノウハウ、経験を共有！

【例】1・2組は、算数の指導で成果を上げている。
⇒担任の教科専門性が高いことが考えられるので、得意な教科指導を高めるよい指導方法を共有！

*【帳票42】は、本年度の児童生徒の調査結果を、前年度の学級に戻して集計した帳票です。本年度の調査結果を前年度の指導の成果として検証することができます。中学1年生の調査結果については、出身小学校の6年生の学級に戻し、小学校にデータを返却しています。これにより、小学6年生の時の学級での指導を検証することができます。また、学習方略や非認知能力等の伸びも検証することができます。

例

年度	学校名	R△ 学年	R△ 組	R△児童 生徒数	R△→RO (変化量)									
					主体的・対話的で深い学びの実施	学習方略			非認知能力					
						柔軟的方略	フラッシュカード	作業方略	—	認知的方略	努力調整方略	自制心	自己効力感	動機性
□□	◎◎市立〇〇小学校	4	1	28	0.0	-0.1	0.0	-0.1	—	0.0	0.0	—	—	-0.3
□□	◎◎市立〇〇小学校	4	2	26	0.1	0.2	0.2	0.1	—	0.0	-0.5	—	—	-0.7
□□	◎◎市立〇〇小学校	4	2	26	0.3	0.4	0.4	0.4	—	0.2	0.3	—	—	-1.4
□□	◎◎市立〇〇小学校	4	3	27	-0.1	-0.1	-0.2	-0.1	—	-0.2	0.4	—	—	-0.9

- ・旧小学6年生のデータが返却されている
⇒旧6年生のクラスの実践の振り返りに活用できる
- ・中学1年生の【帳票40】には小学6年生の時のデータが記載されている
⇒小中連携の1つの視点としても活用できる

*【帳票42】は、学校全体で良い取組や効果のあった実践を共有・普及することを目的として活用します。この帳票の取扱いについては、管理職と相談の上、決定してください。

①担当からの聞き取りや授業参観により、良い取組を把握します。

【方法例① 担当からの聞き取り】

帳票40をもとに、主体的・対話的で深い学び、非認知能力、学習方略の数値が高い学級や学年を担当している教員から、学年全体や教科指導で取り組んだことや、共通して実践した指導方法、指導のポイント等の聞き取りを行う。

＜聞き取り例＞

- ・子どもたちと接するとき、心がけていること（前向きな言葉かけ、一緒に遊ぶ等）
- ・授業の導入場面での工夫（興味をもたせる導入、めあて・見通しのもたせ方等）
- ・授業の展開場面での工夫（言語活動の充実、ペア・グループ活動の設定等）
- ・授業の終末場面での工夫（まとめの仕方、振り返りの充実等）
- ・学年で指導を徹底した取組（規律ある態度の指導、ノート指導、掲示物の工夫等）
- ・家庭学習の与え方（目安の時間の設定、チェックシートの活用、予習・復習等）

ポイント

- ・上記の例を参考にして、より具体的に聞き取ってください。
- ・工夫した取組などにも注目して聞き取ってください。

【方法例② 授業参観】

帳票40をもとに、主体的・対話的で深い学び、非認知能力、学習方略の数値が高い学級や学年を担当している教員の授業を校内で参観する機会を設け、授業で見られた良い取組を把握する。

＜参観の視点の例＞

- ・主体的な学びを実現するための工夫
（めあてや見通しのもたせ方、まとめと振り返りによる学習の定着等）
- ・対話的な学びを実現するための工夫
（互いの考えの比較検討の工夫、教師と子ども・子ども同士の双方向の対話の実現等）
- ・深い学びを実現するための工夫
（問題解決的・探究的な学習の実践、思考を深める発問や板書等）
- ・言語活動の充実（描写、要約、説明、記録、報告等を文章等でまとめる活動等）



ポイント

- ・授業後の協議が深まるよう、参観の視点を示すなどの工夫をしてください。

②「聞き取りの結果」や「授業参観の感想」等、分析結果を資料にまとめ、全体で協議、意見交換します。

帳票40をもとに、学年（学校）ごと、教員ごとに分析する

〇組は「プランニング方略」の値が高いね。どんな取組をしているのかな？

〇〇先生の△△の指導方法が子どもの力をつけていますね

〇年生の◇◇の取組が良い結果につながっているようです

私もその実践に取り組んでみよう！

全校で取り組んでいる☆☆の取組の効果が表れていますね

指導主事のアドバイスを取り入れてみよう



校内研修の例

【協議例①】 帳票40をもとに、数値が低い子どもの状況を把握する

- 〇〇さんは、自己効力感と算数の学習意欲の数値が低いので、そこを高めれば算数の学力レベルが向上する可能性がある

【協議例②】 帳票40をもとに、学級（学年や学校）の傾向を把握する

- 〇年〇組は「主体的・対話的で深い学びの実施」の数値が高い。これは、◇◇の取組が結果につながっているのではないかと
- △年は2クラスともプランニング方略の数値が高い。これは、☆☆の取組の効果が表れているのではないかと

③仮説を設定し、それに基づく取組、検証を行います。

◇協議、意見交換を経て仮説を設定し、それに基づいた効果的な取組を共有します。

◇取組を実践し、効果について検証を行います。

◆学年（学校）、教員独自の仮説を設定し、仮説に基づく取組、検証を行う。

<仮説>（協議・意見交換により設定）

（例）「授業で自分の考えを理由づけて発表したり、書いたりする機会を増やすことで、学力が伸びる子どもたちが増える。」

<重点項目>（本校の実態及び協議・意見交換から設定）

（例）①学力レベルが低い子どもへのきめ細かな指導を行う

②授業規律を大切にする

※上記①②は全教員で重点化し、取組を徹底する

1 担当からの聞き取りや授業参観により、良い取組を把握します

【方法例① 担当からの聞き取り】

- 前年度、伸びている学年、教科を担当した教員から、学年全体や教科指導で取り組んだことや、共通して実践した指導方法、指導のポイント等の聞き取りを行う。

<聞き取り例>

- ・子どもたちと接するとき、心がけていること（前向きな言葉かけ、一緒に遊ぶ等）
- ・授業の導入場面での工夫（興味をもたせる導入、めあて・見通しのもたせ方等）
- ・授業の展開場面での工夫（言語活動の充実、ペア・グループ活動の設定等）
- ・授業の終末場面での工夫（まとめの仕方、振り返りの充実等）
- ・学年で指導を徹底した取組（規律ある態度の指導、ノート指導、掲示物の工夫等）
- ・家庭学習の与え方（目安の時間の設定、チェックシートの活用、予習・復習等）



- ・上記の例を参考にして、より具体的に聞き取ってください。
- ・工夫した取組などにも注目して聞き取ってください。

【方法例② 授業参観】

- 前年度、学力等を伸ばした教員の授業を校内で参観する機会を設け、授業で見られたよい取組を把握する。

<参観の視点の例>

- ・主体的な学びを実現するための工夫
（めあてや見通しのもたせ方、まとめと振り返りによる学習の定着等）
- ・対話的な学びを実現するための工夫
（互いの考えの比較検討の工夫、教師と子ども・子ども同士の双方向の対話の実現等）
- ・深い学びを実現するための工夫
（問題解決的・探究的な学習の実践、思考を深める発問や板書等）
- ・言語活動の充実（描写、要約、説明、記録、報告等を文章等でまとめる活動等）



- ・授業後の協議が深まるよう、参観の視点を示すなどの工夫をしてください。

2 「聞き取りの結果」や「授業参観の感想」等、分析結果を資料にまとめ、全体で協議、意見交換します



校内研修例

協議例 1 どのような学力状況にある子供を重点的に伸ばしていくか。

- 学力が下位で、伸び悩んでいる子供を伸ばしたい。
 - 「自分の考えを書くことが苦手」で、伸び悩んでいる子供を伸ばしたい。
 - 伸びている子供を、もっと伸ばしたい。
- (例えば伸びが著しい子供が中位層に集中している学校など)

協議例 2 学年（学校）として、どのようにして伸ばしていくか。

- 効果的と思われる取組を学年（学校）に広げたい。
- 学校の強みとして表れている項目を地域・保護者に広めたい。

3 仮説を設定し、それに基づく取組、検証を行います。

- 協議、意見交換を経て仮説を設定し、それに基づいた効果的な取組を共有します。
- 取組を実践し、効果について検証を行います。

● 学年（学校）、教員独自の仮説を設定し、仮説に基づく取組、検証を行う。

<仮説>（協議・意見交換により設定）

例「授業などで、自分の考えを、理由を付けて発表したり書いたりする機会を増やすことで、学力が伸びる子供たちが増える。」

<重点項目>（本校の実態及び協議・意見交換から設定）

例 ① 学力の階層が低い子供へのきめ細かな指導を行う。

② 授業規律を大切にする。

※ 上記①②は全教員で重点化して取り組む。

**活用例① 「質問紙調査」と「学力の伸び」を視点とした分析
——「どのような児童生徒が学力を伸ばしているのか？」——**

手順1 「①クロス集計（「学力の伸び」の階層と児童生徒質問紙の項目）」のシートを開く。

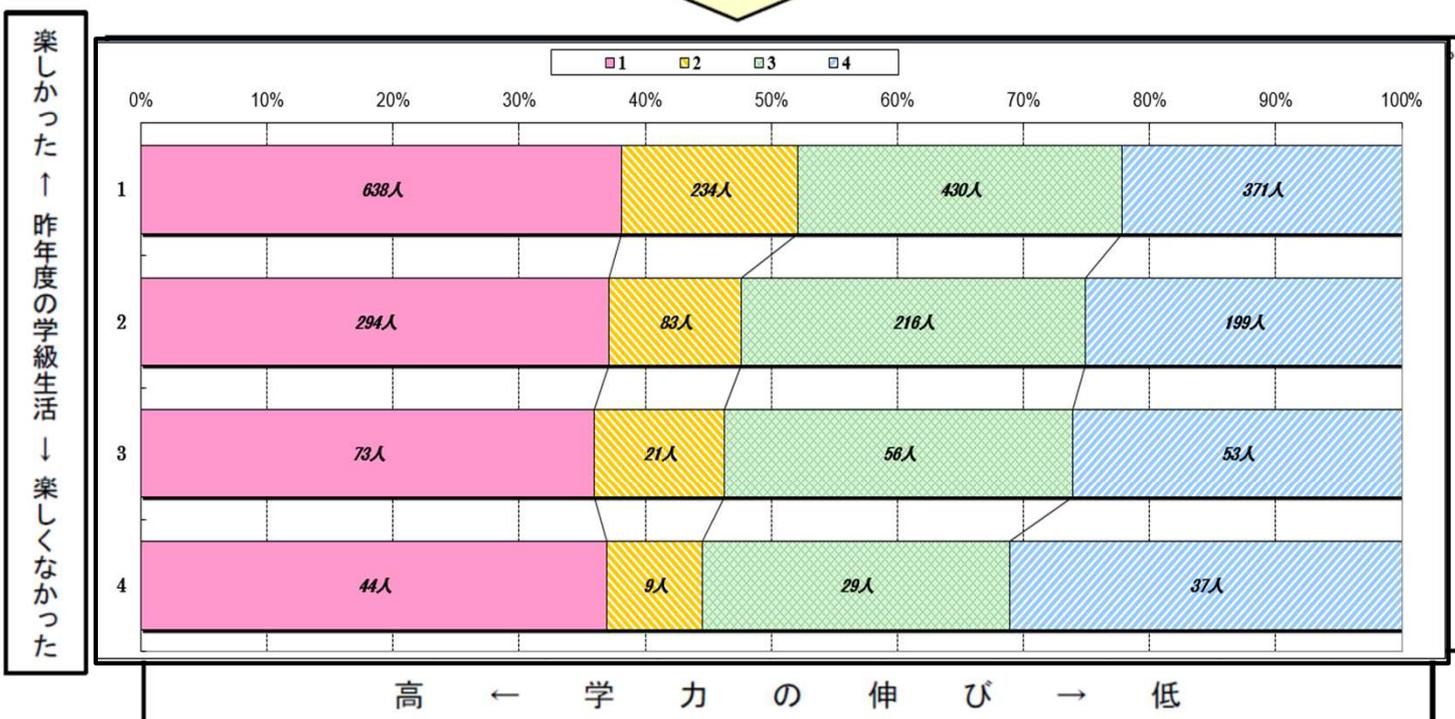
手順2 縦軸カテゴリーで質問紙調査の項目を選ぶ。

横軸カテゴリーは学力の伸び、教科を選ぶ。

縦軸カテゴリー⇒ 質問《（小5）学級での生活は楽しかったですか》

横軸カテゴリー⇒ 学力の伸びの階層_算数

フルダウンで選択するだけでクロス集計の帯グラフが出来ます！



上の帯グラフは、「(前年度の)学級での生活は楽しかったですか」と「算数の学力の伸び」のクロス集計です。

※「分析支援プログラム」の詳細な操作については、「分析支援プログラム活用マニュアル」を参照してください。

活用例②

「他項目との関連の強さ」を視点とした分析 ——「学校として何に取り組むのが有効か？」——

とっとり学力・学習状況調査分析支援プログラム＜小学校6年生 関連探索＞

探索項目⇒ 算数【領域等】《量と測定》成績階層

プルダウンで選択するだけで相関係数のリストが出ます！

手順1 「④関連探索」のシートを開く。

手順2 探索項目を選ぶ。

探索項目(相関係数が高い順に表示)	相関係数
算数【観点】《数量や図形についての技能》成績階層	やや強く関連 0.781
算数【観点】《数学的な考え方》成績階層	やや強く関連 0.755
算数【観点】《数量や図形についての知識・理解》成績階層	やや強く関連 0.750
算数【領域等】《数と計算》成績階層	やや弱く関連 0.673
算数【領域等】《図形》成績階層	やや弱く関連 0.626
算数【領域等】《数量関係》成績階層	やや弱く関連 0.604
国語【領域等】《読むこと》成績階層	やや弱く関連 0.531
国語【観点】《読む能力》成績階層	やや弱く関連 0.531
国語【領域等】《伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項》成績階層	やや弱く関連 0.530
国語【観点】《言語についての知識・理解・技能》成績階層	やや弱く関連 0.530
国語【領域等】《話すこと・聞くこと・書くこと》成績階層	0.424
国語【観点】《書く能力》成績階層	0.383
国語【観点】《話す・聞く能力》成績階層	0.293
国語【領域等】《言語の活用》成績階層	0.286

- ・相関係数が0.8以上のときは **強く関連**
- ・相関係数が0.7以上のときは **やや強く関連**
- ・相関係数が0.5以上のときは **やや弱く関連** と表示が出ます。
- ・相関係数が0未満のときは 相関係数の値が**赤文字**で表記されます。

上の例は、探索項目に「算数【領域等】《量と測定》成績階層」を選択したものです。多くの項目と相関関係が出ています。